知的障がいのある児童の学習において、思考の整理を促し、表現する活動の充実に関する実践

日 時 令和4年9月9日(金)

対 象 盛岡市立向中野小学校 知的障がい特別支援学級

指導者 総合教育センター 研修指導主事 藤井 未央 盛岡市立向中野小学校 教諭 松川 紀子

1 単元名

みちあんないを しよう

2 単元の目標		
知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	学びに向かう力、人間性等
共通、相違、事柄の順序など情報	① 相手に伝わるように、行動した	言葉がもつよさを感じるとともに、
と情報との関係について理解する	ことや経験したことに基づい	楽しんで読書をし、国語を大切にし
ことができる。((2)ア)	て、話す事柄の順序を考えるこ	て、思いや考えを伝え合おうとする。
	とができる。(A(1)イ)	
	② 伝えたい事柄や相手に応じて、	
	声の大きさや速さなどを工夫す	
	ることができる。(A(1)ウ)	

3 単元の評価規準		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
共通、相違、事柄の順序など情報	① 「話すこと・聞くこと」におい	進んで話す事柄の順序を考え、
と情報との関係について理解して	て、行動したことや経験したこ	学習課題に沿って相手に伝わるよ
いる。((2)ア)	とに基づいて、相手に伝わるよ	うに道案内をしている。
	うに、話す事柄の順序を考えて	
	いる。 (A (1) イ)	
	② 「話すこと・聞くこと」におい	
	て、伝えたい事柄や相手に応じ	
	て、声の大きさや速さなどを工	
	夫している。(A(1)ウ)	

4 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて

- ・道案内を聞きながら、校舎内を歩く体験を通して、道案内に興味をもつことができるようにする。
- ・単元計画を視覚的に示したり、単元の最後は、担任外の教員に交流学級までの道案内をすることを示したりすることで、見通しをもって最後まで取り組むことができるようにする。
- ・交流学級までの道案内をするために、原稿作りを指導者と話し合いながら進めたり、自分に合った方法を 選択したりすることで、道順に沿って事柄を整理することができるようにする。また、道案内の原稿作り や発表の仕方は、一人一人方法が違ってよいことを共通理解する。
- ・写真の投影や、プレゼンテーションアプリを活用して、自分に合った方法で道案内をすることができるようにする。

5	情報活用能力につ	ハて				
	本単元の実践で、	見童	生徒に必要なICTの基	基本排	操作	
0	PCの起動や終了	0	写真や動画の撮影	0	写真や動画の視聴	写真や動画の編集
0	文字の入力		ファイルの呼び出し・保存	0	アプリケーションの操作	ブラウザでのインターネット検索
0	プレゼンテーション		問題解決のための活用		クラウドの協働作業	情報モラル・情報セキュリティ

6	単元の指導と評価の計画(金	全6時間)			
時	学習活動	指導上の留意点	重点	記録	評価規準・評価方法
1	・道案内を聞きながら、校	・道案内を聞きながら、校舎	態		【態度】〔行動観察〕
	舎内を歩く。	内を歩く体験を通して、道			道案内についてこれまでの経
	・自分たちも道案内をす	案内に興味をもつことが			験と結びつけて積極的に考え、単
	るという課題をもつ。	できるようにする。			元計画に沿って見通しをもって
		・単元の最後には、担任外の			いるか確認する。
		教員に交流学級までの道			
		案内をすることを示し、単			
		元の見通しをもつことが			
		できるようにする。			
2	・「分かりやすい道案内」	・前時の体験を振り返り、指	知		【知・技】〔行動観察・発言・記述〕
	を知る。	示語の使い方や目印にな			道案内をするために、必要な事
	・道案内する場所と目印	るものなどの視点を示し、			柄を選んでいるか確認する。
	になるものを確かめ	相手に「分かりやすい道案			
	る。	内」を理解することができ			
		るようにする。			
3	・目印になるものを撮影	・次時以降の資料になること	知	0	【知・技】
	しながら、道順を確か	を伝え、右折や左折をする			〔行動観察・写真の記録・発言〕
	める。	場所や、目印になるものを			目的地までの道順や、目印にな
		撮影できるようにする。			るものを理解しているか確認す
					る。
4	・道案内の内容を考え、	・相手に正しく伝えるための	思	0	【思・判・表①】〔記述・発言〕
•	発表原稿を作る。	ポイントを示したり、撮影	•		相手に正しく伝えるためのポ
5		した写真を見たりしなが	態		イントや、撮影した写真に基づい
		ら、道順を想起することが			て、話す事柄の順序を考えている
本		できるようにする。			か確認する。
時		・話す事柄を整理しながら、			【態度】〔行動観察〕
		発表原稿を作ることがで			課題に沿って練習しながら、道
		きるようにする。			案内の内容を考えているか確認
		・発表方法を複数示し、自分			する。
		に合った方法を決めて、繰			
		り返し練習することがで			
		きるようにする。			
6	・道案内の発表会をす	・児童の道案内を聞きなが	思		【思・判・表②】〔行動観察・発言〕
	る。	ら、担任外の教員が校舎内			伝えたい事柄や相手に応じて、
		を歩くことを確認し、相手			声の大きさや速さなどを工夫し
		意識をもって発表するこ			ているか確認する。
		とができるようにする。			

本時の指導

本時の目標

10 とができ IJ **10** 話す事柄の順序を考え 撮影した写真に基づいて、 相手に正しく伝えるためのポイントや、 ١J

でできる

. 주ㅡㄷ

ロ ソ ת

(3)

タブレットCや電子票板等を活用し、数室内の授業や他地域・海外の学校との交流学習において子供同士による意見交換、発表などむ互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。 C4 学校の壁を越えた学習 C2協働での意見整理 協働学習 C1 発表や話合U G協働制作 デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べる ことや、自分に合うだ。住屋で学習することが容易となる。まだ。 人人人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の 程度に応じた学びを構築することが可能となる。 インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録 CTを活用した学習場面 B2調查活動 B5家庭学習 B 個別学習 一人一人の習熟の程度等に 応じた学習 B1 個に応じた学習 B4表現·制作 学校における 挿絵や写真等を拡大・縮小、 画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することに より、子供たちの興味・関心を 高めることが可能となる。 A1 教師による教材の提示 B3 思考を深める学習 音声、動画などの活用 (5)

`) ,	
	個別のドリル学習
	試行錯誤する
0	写真撮影する
	念入りに見る
	録音・録画と再視聴
	空 学
	分析する
	考える
0	見せる
0	共有・協働する
	その他

)	(4) 活用するICT機器等			
0	O PC (ノート・タブレット)		宣子 黒板	大型テレビ
	書画カメラ	Ą	7 エブブラウザ	デジタル教科書
0	〇 プロジェクター (スクリーン)	()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()()	き業支援ソフト	動画コンテンツ
0	〇 プレゼンテーションソフト		ドリル教材	ウェブ会議システム
	その他(

「教育の情報化に関する手引ー追補版ー」2020年6月 文部科学省

情報端末の持ち帰りによる家 庭学習

シミュレーションなどのデジタ ル教材を用いた思考を深める 学習

(5)	(5) 学習場面での1 C T の活用の仕方、目指す子供の姿	の活用の仕方、目指す子	供の姿				
*	本時では、「相手に正しく伝えるためのポイントや、撮影した写真に基づいて、話す事柄の順序を考えることができる。」を目指す。そのために、	く伝えるためのポイント	、や、撮影した写真に割	まづいて、話す事柄の 『	買序を考えることができ	きる。」を目指す。その	ために、以下の二つ
の	の学習場面でICTを効果的に活用していく。	的に活用していく。					
	児童A	日東省	児童C	口 重 日	児童E	児童F	児童G
	[A1 教員による教材の提示]	数材の提示]					
A	校舎内の写真を示したり、	したり、第1時の道案内を視聴し	1を視聴したりして、	道案内を聞いて校舎を歩いた体験を想起できるようにする。	おいた体験を想起でき	るようにする。その中で、	で、提示する写真の
【四条头】	順番や順序を表す言うるための発表原稿を化るための発表原稿を化る	順番や順序を表す言葉を振り返ることで、「分かりやすい道案がるための発表原稿を作る時間であることを確認し、原稿の例を、	分かりやすい道案内] 諡認し、原稿の例を見え	1」について考えることができるように支援する。また、 見ながら見通しをもって取り組むことができるようにす	できるように支援する 反り組むことができる	順番や順序を表す言葉を振り返ることで、「分かりやすい道案内」について考えることができるように支援する。また、本時は、自分たちが道案内をするための発表原稿を作る時間であることを確認し、原稿の例を見ながら見通しをもって取り組むことができるようにする。	たちが道案内をす
	(B1 個に応じた学習						
	撮影した写真を見た	撮影した写真を見ながら、思考を可視化したり、話す事柄の	たり、話す事柄の順	撮影した写真を見	撮影した写真を見	撮影した写真を見ながら	がら、思考を可視化
[c	序を捉えたりすること	序を捉えたりすることができるようにする。また、	ロイロノート	ながら、思考を可視	ながら、思考を可視	したり、話す事柄の順	. 捉
Q į	を使用して、撮影した	を使用して、撮影した写真を並べ替えたり順序を表す言葉を加	 	化したり、話す事柄	化したり、話す事柄	とができるようにする。	。また、ロイロノー
画品	たりして、発表原稿を作る支援をする。	を作る支援をする。		の順序を捉えたりす	の順序を捉えたりす	トを使用して発表原稿を作る支援をする	るを作る支援をする。
核运				ることができるよう	ることができるよう		
· Ru				にする。またロイロ	にする。また、ロイ		
]				ノートを使用して発	ロノートを使用し		
				表原稿を作る支援を	て、撮影した写真を		
				1 5°	並べ替えたり順序を		
					表す言葉を加えたり		
					して、発表原稿を作		
					る支援をする。		

_	学習活動		! ♦)	4	指導上の留意点 評価の観点 ■活	点 ■活用するICT機器等)	等)	
		児童A	児童B	児童C	児童D	児童E	児童F	児童G
' '	学習課題を把握す 。前時までの学習や		ながら、確認で 提示したり実際	きるようにする。 の道案内を再生した	- -9して、児童が道	案内を聞いて校舎	・単元計画表を見ながら、確認できるようにする。・校舎内の写真を提示したり実際の道案内を再生したりして、児童が道案内を聞いて校舎を歩いた体験を想起できるよ	てきるように
人 2: 	単元計画を振り返り、本時の学習を確認す		クター 教師に	よる数材の提示 [A	, 1]			
<u></u>	0	みちあんないの		じゅんびを しよう。				
C1 49	発表原稿の作り方を確認する。	第2時に学習しする。	した「分かりやすい道案内」	い道案内」を確認し、		の中に取り入れる	自分の発表原稿の中に取り入れる意識をもつことができ	きるように
		撮影した写真が	, !	目的地までの順番になっている	• 写真や発表原	撮影した写真	· 写真や発表原稿を、	ロイロノー
		な確認するように促す。・毎世に合むなナトー発表院	に促す。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	マストらに促す	幅か、ロイロ ノートが毎 <i>し</i>	な、田昭指派かの画巻にた	トを使して整埋することを伝える	ることを伝え
		発表原稿を文字	、おが、これには、これは、これは、これは、これには、これには、これには、これには、これ	3. ************************************	く整理するに		・基本的なロイロノートの使い方	ートの使い方
		残すなど方法を	選べることを示	し、自分に合った	とを伝える。		を教える。	
		方法で発表する	ことを伝える。	1 1 1 2	・基本的なロイ	促す。	・「分かりやすい道案内」を確認	5内」を確認
展:		一分かりやずい直案内」	直案内」を確認し、	を確認しながら、順序を	ロノートの使		しながら、発表原え、	隔に陥り込む
匪;		表す言葉を使うように促す。	ように促す。		い方を教え		ことを促す。	
0; 0;		Windows タブレッ	<u>~</u>		νο <u>:</u>	声で残せるに		,
下		個に応じた指導	[[B1]		・一分かりやす	とを伝え、毎日、	個に応じた指導 []	[B1]
					(い道案内) を	東に合む中とサイトがある。		
					編黙しながら高い。サイル			
					順子を表す言葉を任かれて	スのよりに依す		
					米が使っよって信む	· [分かりやす		
					Windows タブレ	い道案内」を		
					\(\frac{\sigma}{\sigma}\)	確認しなが		
					個に応じた指	の、順序を表子手事が年が		
					導 [B1]	ショ米を対していて信か。		
						Windows タブレ		
						ット個で広じゃ指		
						域 [B1]		

5	10 10 11V 41 / 1 C 0 m 1 N A 11V 0 841 0
◇相手に伝わる よった、 したこと を を を を を を を が な が な が な が が が が が が が	・適合かすうきうの己るブ使原た表に順つ、言こた振視評。レつ精感す保守て順業とかり点価まいて移想をみいたはないなをなると返でを、上発作をよがる表使でいり自すタを表っ発う
◇相手に伝わる よった、 になるものを 様ばなめのを を を を を を と の 関 の い 、 情 報 と の 関 級 と の 関 級 に し い が な が が が が 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。 。	・分い路にをとかり点価たト発作をに分道まな人がと返でを、を表っ書足や力、るれでいり自すタを原たくずの日もるきうの己。 プロ語感よな印のこた振視評ま ツてを想う
たことや経験した 原を考えることが	 ・道順と写真が合っているか、順序を表す言葉を使うことができたかという振り返りの視点で自己評価をする。また、タブレットを使って発表原稿を作った感想を発表するように促す。
3 自分に合った方法 で、発表原稿を作る。 70 分	4 学習を振り返る。 「発表原稿を作ること ができたか」という視 点で学習を振り返る。 振り返りカードに記 入する。